

## 論点整理案

※ 交付金・負担金算定等WG第5回会合の事務局説明資料抜粋

### 検討事項2. 共通費の配賦基準

#### 他の役務と共用している設備や他事業者と共用している設備等の費用の配賦基準

#### 検討事項2.

- ✓ 「他の役務と共用している設備」や「他事業者と共用している設備」に関して費用配賦するに際し、適切なコストドライバをどのように考えるか

#### 考え方(案)

- 一. (略)
- 二. 放送役務と共用する場合、アクセス回線部門において一芯又は二芯で提供しているケースが存在するところ、二芯であれば、芯線数で費用を配賦し、第二号基礎的電気通信役務に係る部分を、今回の交付金の算定対象とすることが適当であるといえるのではないか。一方で、一芯で放送役務及び通信役務を提供している場合には、上述一. の基準にしたがって、通信役務に係る部分のコストのみを標準判定式の算定対象とすることが適当ではないか。当該基準について具体化すれば、例えば「役務別の支出額比」、「波長数」、「トラヒック比」や「帯域比」などが考えられるところ、いかに考えるか。現在総務省で開催中の「ブロードバンドサービスに関するユニバーサルサービス制度におけるコスト算定に関する研究会」(以下「コスト算定研究会」という。)において、この点、まずFTTHの配賦基準について議論し、その後、その結論をベースにHFCにも適用することの可否について検討を深め、そうしたコスト算定研究会の検討状況も踏まえて、年明けのこのワーキンググループの答申案の議論までに何らかの基準又は方向性を同案に盛り込んではいかがか
- 三. (略)

#### 当日の発言概要

大谷構成員：一芯の場合の基準ですけれども、ここに挙がっているものを見ると、役務別の支出額比やトラヒック比ということになりますと個別の芯によって差異が出てくるもので、それを一つ一つ計算するということになると非常にコストがかかる。その算定だけで複雑な事務が必要になってくるものだと思いますので、こういった一芯で放送と通信を取り扱う場合の一般的な方法というものに基づいて、経済的な基準、基準による計算をすることそのものに多大な労力を要しないような計算方法を見いだすことが必要なのではないかと思っております。聞くとところによると通信というのは上りと下りがあって、常に波長数としては2つが必要で、放送はまた違ったものということですので、できるだけ単純な数値を用いることに合理性がもし見出されるのであれば、コスト算定研究会の結果を受けて、検討させていただくことが良いのではないかと考えております。